

Tradition & Innovation

英語教育史資源の分析と ICT を活用した学習方法の開発

生命環境学部 英語教育研究室 馬本 勉

日本人は「英語が下手」と言われますが、本当でしょうか？ 日本で英語を学んでも身に付かないのでしょうか？ 私の研究室では、

- (1) 幕末・明治期以降に日本（特に広島）で積み重ねられてきた英語学習の「軌跡」を集め、分析しています。
- (2) CALL（語学演習室）やLMS（学習管理システム）など、ICT（情報通信技術）を活用した学習法や教材を開発しています。

古くからの知恵（Tradition）と、新しいアイデア（Innovation）とを融合させることにより、私たちにとって「より良い英語の学び」を探っていきたいと思います。本学の英語授業をはじめ、日本の英語教育の改善に活かすべく、研究を続けています。

※英語教育研究室（馬本研究室）は、生命環境学部の専門教育や卒論ゼミを行う研究室ではありませんが、学生の皆さんのニーズに応じた英語学習支援を行っています。



◇ 教育・研究・地域貢献 ◇

◆英語学習支援サイト “Shobara CALL”

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~shobara/call/>



◆科学研究費

2012～2014 年度 基盤研究 C

「**独習書の分析を通じた英語学習法の変遷に関する研究**」

2010～2011 年度 研究成果公開（共同研究）

「幕末以降外国語教育文献コーパス画像データベース」

2002～2004 年度 基盤研究 C（共同研究）

「明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析」

◆公開講座

2014 年

「音読から英語を学び直す」

2013 年

「訳読法の歴史に学ぶ『正則』英語学習法」

「『直訳』という書物はいかにして独習書となるか？」

2012 年

「英語で読む倉田百三: *The Priest and His Disciples: A Play*」

「英学史の中の倉田百三」「百三と英語青年」

「広島で生まれた英語の辞書」

◆県立広島大学重点研究事業

2010～2011 年度 重点研究（共同研究）

「Moodle を用いた『県立広島大学・英語 e ラーニングモデル』の構築」

2010 年度

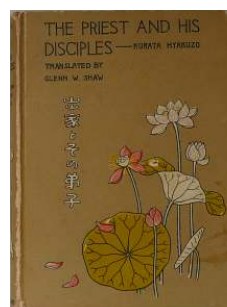
「明治期における英語読本独習書に関する研究」



森 修一（庄原出身）『ニューナショナル第二リードル独案内』



（明治 19 年に発行された英語参考書）



倉田百三作品の英訳



庄原英学校址（庄原市）